

原田ゼミナール 川から考える 海の環境問題



海ごみ問題について

現在、世界的に海ごみが問題となっています。そのプラスチックごみの多くは、生活ごみと呼ばれ、我々人間が生活によって海や河川に流出したものです。私たちの行う活動の中でも、こういった生活ごみは頻繁に目にすることがあり、他人事では済ませられなくなっていることがわかりました。

これらが海岸に漂着することで景観を損なうだけでなく、海洋生物の誤飲・誤食による死亡や、生態系の変化を引き起こすといった影響があります。

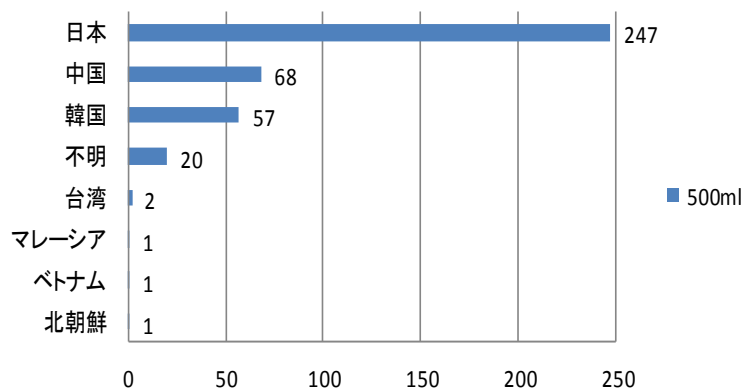


冠島（京都府舞鶴）での調査

2年生はゼミ合宿として、京都府の北部に位置する冠島で漂着ペットボトルの調査を行いました。

冠島はオオミズナギドリ保護のため、文化庁の許可がなければ立ち入ることのできない無人島です。この調査では、漂着ペットボトルの製造国を明瞭なことを目的に実施しました。ペットボトルについているリサイクルマークやバーコードから、どのような国から漂流してくるのかを区別しました。

漂着ごみ調査結果(500ml)



御厨祭でのプラごみ削減

大阪商業大学で年に一回開催されている学園祭「御厨祭」では、屋台で使われるプラスチック容器の代替品として、紙容器を使用する、プラスチックフリーのお店を出店しました。

海ごみ問題やプラスチックごみ問題を周知するため、パネル展示のほか、口頭説明なども行いました。

実際に見て、知って、使ってみていただくことで、少しでも多くの人に、この問題に興味を持ってもらえるように、この活動は来年以降も続けていきます。



庭窪ワンドでの活動

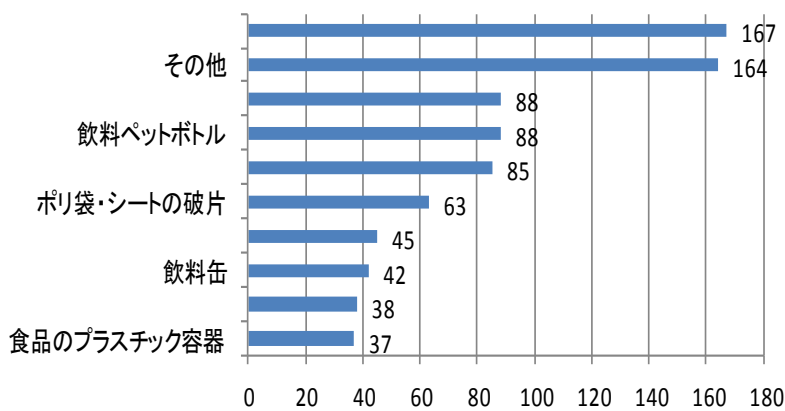
庭窪ワンドは、大阪府守口市淀川上流に位置しています。ここでは天然記念物の希少種であるイタセンパラが生息していることで有名です。

しかし、外来魚の放流により生態系が変化、平成18年以降イタセンパラは淀川から姿を消した背景があります。

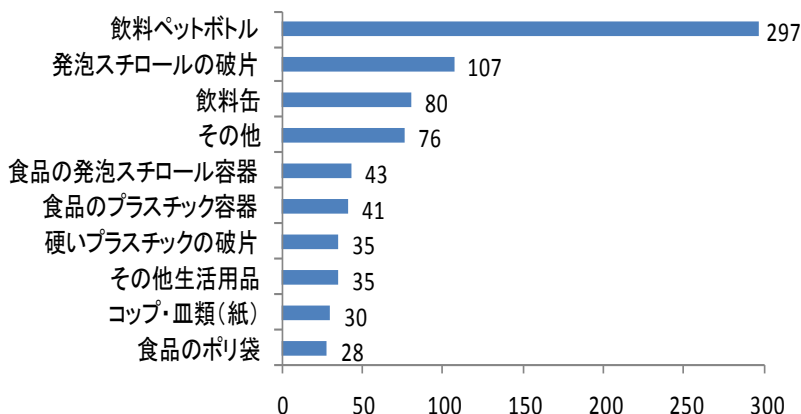
そこで、庭窪ワンドでは毎月第二日曜日に淀川管内河川レンジャーの方を中心に、様々な企業、大学の方々と一緒に外来魚の駆除と川の保全活動を行っています。外来魚を駆除し、イタセンパラを放流させ繁殖させることを目的としており、一方で漂着ゴミの清掃活動及び、データ収集を行いより高度なデータを集めています。また、2018年12月の活動では手をつけられなかったワンドを開拓するべく投棄されたゴミの清掃を行い、今まで活動を続けていたワンドではあと2年程度でイタセンパラを放流できるレベルまでに至っています。



庭窪ワンド 2018年度(4~12月) 漂着ゴミ組成調査



海老江干潟 2018年度(4月~12月) 漂着ゴミ組成調査



海老江での活動

海老江干潟は、大阪府福島区淀川の河口部に広がる干潟である(図1)。淀川河口部では、周辺に投棄されたごみだけではなく、上流部からも多くごみが流れ着く。また、ごみの多くはプラスチック類や発泡スチロール類であり、これらを生物が誤飲・誤食する危険性があるため、川や海などの生態系に悪影響を及ぼす可能性がある。近年、このような問題が世界各地で取り上げられつつある。

そこで、この問題を未然に防ぐため、毎月第二日曜日にNPO法人ゴミング・ゴミ拾いネットワーク(以下ゴミング)のみなさんと漂着ごみの清掃活動を行うとともに、どのようなごみがどのくらい存在するのかを把握し、根本的な発生抑制のための改善案の立案に貢献することを目指している。

ゴミングのおもな活動と目的はゴミ拾いを行っている組織や団体と連携し、ネットワークを構築することによって、その地域に関わる人々が快適な生活環境を享受できること、である。